群馬県環境アドバイザー会報

グリーンニュース　第２７号

発行年月日　平成　１８年　３月　２０日
発行責任者　群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表　鈴木　克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

☆平成１７年度マイ・バッグ・キャンペーン報告（２ページ）
☆環境問題に関する情報交換と相互学習の場に（３ページ）
☆部会報告
　温暖化・エネルギー部会・ゴミ部会（４ページ）
　自然環境部会・広報部会（５ページ）
☆温暖化・エネルギー部会主催　見学会報告（６ページ）
☆大気の汚染は？（７ページ）
☆尾瀬のトイレ（８ページ）
☆広報部会からお知らせ（８ページ）

平成１７年９月１日から１１月３０日まで行われたマイ・バッグ・キャンペーンは、多くの県民の方に参加していただき、前年度を大幅に上回る成果を得ました。啓発活動にご協力してくださった皆様に厚くお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

１　参加店

		参考（平成１６年度）
キャンペーン参加店舗数	５８２店舗	６１３店舗
ア　スーパーマーケット等	２５０店舗	２３８店舗
イ　商工会等団体	２５４店舗（１５団体）	３００店舗（13団体）
ウ　その他	７８店舗	７５店舗

２　賞品（賞品総数３，０４２点）

１等　県産材利用家具オーダー券（１０万円分）	１本	
２等　温泉宿泊券（１万円分）	１０本	
３等　お米・お米券	１００本	
４等　図書カード（５００円分）	１，０００本	
５等　日帰り温泉入浴券等	ペアで８２１本	県内市町村から提供
６等　マイ・バッグ	１，１００本	
特別賞　商品券（１万円分）	５本	
提供：エーコープ、コープぐんま、とりせん、フジタコーポレーション、フレッセイ		
みどり賞　リンゴの木のオーナー	５本	

３　応募総数　１０８，８４２枚　　参考　平成１６年度　９４，４７９枚

４　キャンペーンの効果

レジ袋節約効果　１，０８８，４２０枚（１０枚×１０８,８４２枚）
ごみ減量効果　１０,８８４kg（1枚１０ｇ）
石油節約効果　２２,４２１㍑（1枚２０．６ml）
→ドラム缶（２００㍑入り）１１２本分
CO2 排出量削減効果　５６，２７７kg（２２，４２１㍑×２．５１kg）

	参加店	応募総数	レジ袋節約効果	ごみ減量効果(kg)	石油節約効果(㍑)	CO2 排出量削減効果(kg)
12年度	483	25,162	503,240	5,032	10,366	26,021
13年度	546	26,405	528,100	5,281	10,878	27,306
14年度	519	35,313	706,260	7,062	14,548	36,518
15年度	499	36,133	722,660	7,226	14,886	37,366
16年度	613	94,479	944,790	9,448	19,463	48,852
17年度	582	108,842	1,088,420	10,884	22,421	56,277

環境問題に関する情報交換と相互学習の場に

代表　鈴木 克彬

前号のグリーンニュース（26 号）では専門部会のスタートが伝えられましたが、この経緯をここで述べながら、連絡協議会の活性化に触れたいと思います。

登録されたアドバイザーの方々に「環境問題の中で、関心のある事項は何ですか」とアンケート調査を２回行ったところ、２回とも上位３項は、「ごみ問題」「地球温暖化問題」「環境教育」でした。そこで、連絡協議会は、３つの課題をテーマとした専門部会を設け、自主的な勉強会、情報交換の場を作りました。

その後、社会動向に沿った専門部会のあり様の見直し要望があり、それに応じて今年度８月の幹事会で「自然環境部会」を加えての４部会の更新を決め、初めて登録されたアドバイザーの方々の参加を求めて仕切り直しのスタートに至った次第です。

現在、各部会とも、登録参加の申し出をしたメンバーが新たに取り組み課題を検討しながら実践行動に入る段階にあります。

環境アドバイザーの多くの皆様の関心事である温暖化、自然環境、ごみ発生抑制・処理等の問題に対し、それぞれの専門部会に参加することで、アドバイザーという仲間同士のミーティング・情報交換で問題を共有化しながら、また協力しながら活動の輪を広げて下さい。「専門」と言うと権威、学識をイメージし、寄り付き難いものを意識され、参加を躊躇される方もおられるでしょうが、各部会ともそんな雰囲気は全くありません。

地道な泥臭い身近な活動を話題とし、相互に学習する場を目指し、テーマも参加者の意向に従う様になっています。

一方、地域での身近な環境問題への取り組みも大切です。環境アドバイザーには任意な形で、地域での課題に対し、自主的に活動しているグループがあります。その例として、高崎市井野川の清掃、館林市の湖沼や川の水質浄化、前橋市南橘の自然環境保全、太田市新田の幅広い環境対策等多くの方々が活動しています。それを可能にするにはアドバイザーの地域毎の連携・組織化が大事です。

皆様への情報伝達及び各種の事業等の紹介を目的に本誌「グリーンニュース」という機関紙の発行を続けていますが、更に今年４月から当協議会独自のホームページ「ぐんま環境アドバイザーネット」を広報部会が主力となって立ち上げます。ご期待ください。

「行動する環境アドバイザー」を目指すには、それぞれ「身近で出来る事から行動を・・」が基本ですが、皆様には、ご遠慮なく、連絡協議会の事業や専門部会並びに地域でのグループ活動に参加してください。そこには、同じ思い、使命感を持った方々が多くおられ、きっと楽しい有意義な出会いがあると思います。

温暖化･エネルギー部会について

温暖化・エネルギー部会　小川 仁司

昨年１１月、部会の全体会が開かれ、これまで長年、部会のためにご尽力をいただいた菊川さんに代わり、新たに役員も交代したわけですが、この部会は、「温暖化防止活動推進センター」の発足により廃部になる予定のところを、「続けてほしい」という声もあり、何とか存続できたという経過がありました。

登録者数は６５名はいるようですが、予算は組んでいないので、講師を呼んで講演会というわけにもいかないので、勉強会は「温暖化防止活動推進センター」の企画に参加させてもらい、部会としては登録人数６５名を生かせる方法、例えば温暖化防止に向けての各地域での調査や取り組みの発表、個別の事例のワークショップなどできればと思います。

京都議定書の目標期間が２００８年から始まります、時間的余裕もそんなになく、達成困難との声もあります。しかしながら、私たちとしては達成を目標に、部会内の活動ばかりでなく、温暖化防止に関心のある、各地域･団体、会社、商店、学校など、これらを点とすれば、環境アドバイザーの人たちが、それらを結ぶネットワークの役割をはたし、情報を共有し、そのなかから温暖化防止の手がかりを探っていければと思っています。

ゴミとの付き合い方について

ゴミ部会　新井 靖衛

新年度に入ったのを機会に改めて「ゴミ」というものについて考えてみたい。使用前にはずいぶん手をかけ丁寧に扱われてきたものが、使用後にはたちまち粗末に扱われるのがゴミというもの。いったん無価値とみなされると人は見向きもしない。

そこで、ゴミは人間に復讐する。即ち環境汚染という形で。

それ故にゴミに対してそれなりに敬意を払う必要がでてくる。ゴミのプライドを傷つけないように使い切ってやることこそ人間のゴミに対するマナーではないか。

まだまだ役に立ちたいと思っているゴミに対して、それなりの働き場所を考えてやる必要がある。生ゴミは自然から生まれたものだから自然に帰してやる。アルミや鉄は何度でもリサイクルしてやる。廃木材製品はチップにして紙にしたり燃料にする。廃プラスチックは再製品化するか燃料にする。そうすることでゴミは人間の役に立ち自分のプライドを保つことが出来たと満足してくれるのではないだろうか。川や森林に不法投棄されたゴミこそ哀れというべきである。

自然環境部会は何をする？

自然環境部会　飯塚 紘一

１月１４日の自然環境部会で今後の計画を話し合いました。主な内容は「○○をしたいという熱い思い」「まず目標や対象を明確にする」「環境アドバイザーの活動は監視、観察、確認、提案、忠告、行動などであって自分で汗を流すことも大切だが、それだけではない」などでした。

日本自然保護協会の行動理念の中に「現在の自然を、そのままの形で、後々の世代に引継ぐ」ということがあります。純粋の自然には手をつけるべきではない。許されることは人間が自然に手をつけてしまい結果的に問題が起きてしまったこと、あるいは予想される問題に対する改善提案や反対運動に限定されることになります。

皆様の身近な自然についてはどうでしょうか。純粋な自然を除けば、里山、河川、自然公園などが対象になるでしょう。多くの環境アドバイザーの皆様が個人として、あるいは団体として既にこのような身近な自然の保全、改善活動に取り組んでいると思います。他の部会の活動も含めて、このような活動に悪影響を与えてはいけないことは言うまでもありません。

自然環境部会に登録された多くの方々の基本的な思いは共通している筈ですが、各々がかかえる制約条件は千差万別で大きな活動に多数の方々を動員することは困難でしょう。基本的な目的や計画について今後の部会の会合の中で協議していく予定です。

広報部会発足に当たって

広報部会　野村 武彦

環境問題への対応は「Think Globally, Act Locally」（地球規模の視野で考え、実践的な活動は足元・地元の問題に取り組め）と言われています。会員（群馬県環境アドバイザー）はそれぞれの地域での活動を基本としていますが、一人だけの行動にとどまらず他の地域での活動状況等、幅広い様々な情報を会員相互で共有し、それを基に協力しながら実践することで、より大きなパワーとなり、地域への波及が期待できます。

広報部会は、前述を念頭に会員が環境にかかわる諸活動をより効果的にするための情報提供を目指し、「会報（グリーンニュース）」と「ホームページ（ぐんま環境アドバイザーネット）」の編集・発行、並びに設置・更新の作業を当面の課題として取り組みます。

なお、当会の情報媒体である「会報」と「ホームページ」に盛り込まれる活動等の情報内容は、共に広く社会に向け流布されます。それにより会員の地道な活動が各地域や群馬県下は無論、広く一般社会に好意的に理解され、環境アドバイザーの行動への温かい支持・支援に繋がるようにしたいものです。

見学会報告

～温暖化・エネルギー部会主催～

奈賀 由香子

日時：２００６年1月２８日（土）９：００～１５：００
見学場所：「太田リサイクルプラザ」・「城西の杜」（表紙写真）

よく晴れ上がり、お天気に恵まれた一日でした。ただ群馬名物の風が、まるで嵐のように吹き荒れる中、３０名の方が参加されました。集合場所の旧新田町役場から太田市のバスで見学箇所を回ることができ、また、太田市環境政策課の猪越課長補佐が最初から最後までお世話してくださり、あの強風のなか、大変ありがたかったことでした。

予定通り９時半に太田市「リサイクルプラザ」へ到着し、さっそくビデオを見てのレクチャーを受けました。質問の手も次々上がり、太田市でのリサイクルの方法、施設の運営方法、リサイクルされたもののその後の行方など、数多くの質問がでました。太田市ならではの取り組みは、粗大ゴミとして出された家具や自転車などを、修理して再生品として売っている、ということでした。修理するために福祉工場へ業務委託し、障害者の方の雇用の場となり、そこで再生した品物を市民に買ってもらい、市の収益とするのだそうです。

土曜日ということで、分別する機械や破砕する機械類は稼動しておらず、見ることはできませんでしたが、展示室には、再生品として手を入れられたものが、見事によみがえり、破格の値段が付けられていて、かなりの目玉商品もありました。参加者の皆さんの中にも、小さなものは買って帰られた方もおられました。

お昼をはさんで、午後は世界一の太陽光発電の町「城西の杜パルタウン」にあるスーパーエコハウスへ。バスで移動する際に、猪越さんから太田市の環境政策のお話とともに、レクチャーを受け、現地では映像を見ながら詳細なる説明と、実際にエコハウスの中を解説つきで見学しました。太陽光発電、太陽熱利用温水器、ソーラーウォール、地熱取り入れシステム、水を使わないトイレ、断熱塗料など、いろいろなものを取り入れて低エネルギー住宅を目指していますが、足りない部分はＨＥＭＳ（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）で効率よく外部エネルギーを利用し、使いすぎを防いでいるとのこと。太田市の環境政策課に電話してもらえれば、いつでも見学可能だそうですから、ぜひ、体験されることをお勧めします。また、このスーパーエコハウスでは、会議スペースもたくさんあり、市民なら無料で使えるとのことです。太田市民が羨ましく思えました。

今回の見学会は、太田市のご好意によるところが多く、また、職員の方々も気持ちのよい方ばかりで、「行政はサービス業」に徹している太田市の姿も、しっかり拝見させていただきました。質問時間に出された、皆様からのご要望も、太田市ならすぐに取り入れてくれるような、そんな気がしました。

大気の汚染は？

～高崎地区の窒素酸化物測定結果について～

宮崎　薩道

今年はまったく寒い冬で、暖冬に慣れた私たちの身体には殊更厳しく感じられました。それにしても、異常気象の連続、そして台風等の大災害の続発と、地球温暖化による気候変動には誰もが先行きに不安を感じていることと思いますが、日々の暮らしに追われて、この問題に正面から取り組む気持ちになかなかなれないのが一般的な風潮でしょう。

とにかく公害問題と異なり、加害者＝被害者であること、CO_2もNO_2も汚染が原因で死亡という因果関係は今のところ生じないのだから、みんな他人ごとと考えているところがやっかいです。せめて数値化しておけば多少考え方も変わるだろうと、期待をこめて始めたのが、この窒素酸化物（NO_2）汚染濃度測定運動です。

この測定も地域の環境アドバイザー高崎地区会員と高崎市立東小学校エコ・メイト（子どもエコ･クラブ）のメンバー（約２５名）で取り組み始めて６年が経過しました。《継続することが何より大切だよ》と仲間から励まされてこれまで続けてきましたが、やはり自分の住まい周辺の大気汚染の数値は大きな関心事です。

以下の表は市内の測定ポイント（現時点では２９ヶ所）の結果をまとめたものです。

測定年月日	汚れていない ～0.02ｐｐｍの割合	少し汚れている ～0.04ｐｐｍの割合	汚れている 0.04～ｐｐｍの割合
０２･６／６	４４％　（8 ヶ所）	３３％　（6 ヶ所）	２２％　（4 ヶ所）
１２／５	１０％　（2 ヶ所）	７０％　（14 ヶ所）	２０％　（4ヶ所）
０３･６／５	３６％　（9 ヶ所）	６０％　（15 ヶ所）	４％　（1 ヶ所）
１２／４	１３％　（3 ヶ所）	６７％　（16 ヶ所）	２１％　（5 ヶ所）
０４･６／３	５５％　（16 ヶ所）	３５％　（10 ヶ所）	１０％　（3 ヶ所）
１２／２	３％　（1 ヶ所）	６２％　（18 ヶ所）	３５％　（10 ヶ所）
０５･６／２	３２％　（9 ヶ所）	５４％　（15 ヶ所）	１４％　（4ヶ所）

上記を分析してみると、6月（新緑の季節）と１２月（木枯らしの季節）では、はっきり汚染度が違います。自然の回復力は偉大だとつくづく思いますが、０．０２ｐｐｍ以上の汚染地点がじわりじわりと拡大しているのが気になります。今後の大気汚染環境改善運動の指標として、自分たちの日頃の生活（ライフスタイル）の見直しの一助になればと思っています。

尾瀬のトイレ

片山 満秋

尾瀬への入山者は、やや減少気味とはいえ、環境省の調査によれば 2005 年度の入山者総数は 317,847 人でした。その 50.4%が鳩待峠から山ノ鼻を通り尾瀬ヶ原に入っています。

山ノ鼻には公衆トイレがありますが、尾瀬保護財団によれば利用者数は鳩待峠から入る人数の約 1.6 倍（248,232 人）だったそうです。このトイレは水洗式です。浄化槽を経由した排水はどこに行くのかご存知ですか。川上川に放出されています。川上川に入った排水の行方はといえば、まず排水の流入した川上川が猫又川に合流します。猫又川は尾瀬ヶ原の北端近くを流れながら大小河川が合流しヨッピ川、只見川と名を変えて福島県に入り平滑の滝や三条の滝を流れ下って、最後には信濃川に合流して日本海に注いでいます。

「尾瀬の自然保護」というと、とかく、目に付きやすい植物に目が注がれますが、これらの植物の生活を支えているのは水ですし、そもそも尾瀬ヶ原の湿原は水なくしては存在しません。その水の状態が、結果的に尾瀬ヶ原の状態となって表れるのです。尾瀬に限らずトイレを利用するときには、自分の排出したものの行方について考えてみてはいかがでしょうか。山ノ鼻の公衆トイレ排水が流入すると生物にどんな影響を与えているのか、川上川やヨッピ川などで 20 年以上にわたって調査しております。

広報部会から　お知らせ

環境アドバイザーの更新に伴い、前年各地で開催された説明会で、多くの方々から各種情報等の連絡手段としてインターネット・「ホームページ」を設けてほしいとの要請がありました。

検討の結果、それに応えて当連絡協議会によるホームページを持つことになり、急遽、広報部会の WG で準備に取り掛かり、４月１日から環境アドバイザーのための HP

「ぐんま環境アドバイザーネット」

URL：http://gadviser.hp.infoseek.co.jp

を開設する運びとなりました。

予算ゼロの連絡協議会ですので、無料プロバイダーを利用しての文字通り、手弁当での運営となります。アドバイザーに登録されている方の内、インターネットの利用可能な人が半数に満たない状況なので、期待に応えられない点も多々あると思いますが一歩一歩、利用価値を高めて行きたいと考えています。よろしくご支援・ご協力をお願い申し上げます。